

大八化学工業 株式会社

見えないけれど側にいる
素材を進化させる
可塑剤・難燃剤・金属抽出剤



研究開発者を集めたセンター内では、未来へ素材を進化させる研究開発を行っている

世界トップシェア
リン系難燃剤で『燃えない』安心を

見えないけれど側にいる『添加剤』を、あらゆる産業に安定供給している大八化学工業。創業以来、培ってきたエステル合成技術を応用し、さまざまな製品を生み出してきた。

暮らしの中で樹脂製品があふれている現代。本来、樹脂は非常に硬く融通が利きにくい素材であることを「存じだろうか?」そんな樹脂を使い勝手良く変えてしまうのが、『可塑剤』と言われる添加剤だ。塩化ビニルや写真フィルム、食品包装用ラップフィルムといった柔軟性のある樹脂に利用されている。今やそんな合成樹脂は、ありとあらゆる製品に使用され、街の至る所で手にすることが可能となった。

そして近年よくみる『燃えない』という安心と安全を謳った製品、エンジニアリングプラスチックや、ポリウレタンに添加されるのが『難燃剤』だ。パソコンをはじめAV家電やOA機器等に使用されるプラスチック、家具車のシート部材、住宅設備に多く含まれるポリウレタンに利用される。これらに共通しているのは、非常に燃えやすい素材であること。不可燃素材に進化させる『難燃剤』の応用範囲は非常に大きく、世界的なニーズがある。

性質が良く似たものを
分離・抽出する化学

現在、情報通信機器をはじめとする電子材料の製造に欠かせないレア・メタル。世界中でその需要が伸びているのは周知の通りだ。

そのなかでも、レアアース(希土類)と言われる17元素は、コナンサや強力な磁石や発光体などに優れた性質を発揮する。ところが、17の元素はいずれも性質が類似しているため、同じ鉱石中に混合産出された後の単体分離が困難。これを分離・抽出す

るのに、複数の金属(元素)をイオンの状態で含んだ水溶液と接触させ、条件を調整することで特定の金属イオンのみを有機相に取り出すのが、同社の『金属抽出剤』だ。レアアースの分離・抽出のみならず、携帯電話のリチウム電池や、回路基板等に含まれるその他のレア・メタルにおいても効率的に分離・抽出を行うために使用され、これまでの鉱石からの精製に加え、リサイクルでの活用を期待されている。

環境をマネジメントする
それは、我々の使命だ

経済構造が大きな転換期にある状況下でも「顧客のニーズに確実に応え、高品質を維持する」この使命を胸に、2011年1月には、創業の地である東大阪に『大八技術開発センター』を新設。研究開発者を集約し、地球環境に対応した製品開発を行っている。

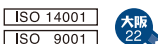
化学物質を扱う企業として、環境保全の取り組みにも注力。環境・安全・マネジメントとして『レスポシブルケア』という、全ライフサイクルの「環境安全健康」を確保し、社会信頼性とコミュニケーションを深める自主的な管理活動にも積極的だ。素材を進化させる先端化学企業は、大正8年創業の老舗として、今もなお、そしてこれからも、走りつづけていく。



『大八技術開発センター』創業の地である東大阪に新設

Company Profile

大八化学工業株式会社



住所 〒541-0046
大阪市中央区平野町1-8-13
平野町八千代ビル
TEL 06-6201-1455
FAX 06-6232-3545
設立 昭和12年6月23日
資本金 8億2,500万円
従業員 270名(子会社への出向社員を含む)
代表取締役社長 吉川均

■主な事業内容
可塑剤、難燃剤を主とする、
有機化学薬品の製造販売

■主な取引先
大手自動車メーカー、大手電機
メーカー、化学製品メーカー、紡
績メーカー等

<http://www.daihachi-chem.co.jp>

他社には
負けない

当社のもづくり
セールスポイント



代表取締役社長 吉川均 さん

私たちは、あらゆる産業の
プロダクト・ソリューションパートナーです

リン系難燃剤・可塑剤において、国内トップメーカーとして、常に時代のニーズを捉え、お応えするのが我々の使命です。暮らしの中のあらゆる場所で応用される樹脂に、新たな機能や価値をもたらす添加剤を幅広く活用してください。